

# 巻頭言

## 襷を握り締めてラストスパート

徳島赤十字病院 副院長兼事務部長 逢坂 公弘

お正月の風物詩ともなった関東学連による箱根駅伝をテレビ観戦しながら、中継所を目前にして汗に濡れた襷を外し必死に力走するランナーの姿に、今年度末で事務部長という職を次に引き継ぐ自分の姿が重なって見えた。

振り返ると、私に与えられた区間は、激変する医療環境という厳しい走路条件の中を、常に医療費削減という向かい風を受けながら悪戦苦闘した11年間の長丁場であった。

この間、564床の病床規模は405床にダウンサイジングされたが、15.7日の平均在院日数を半分の8.6日に短縮したため、新規入院患者様の受け入れ能力は40%もアップし、405床で年間133億円の医業収益を確保するまでになった。病診連携やクリティカルパス、医療安全体制の確立といった取り組みの成果である。

単なる病院の建て替えではなく、小松島市の中心市街地活性化という市街地再開発事業の指定を受けて実施した移転新築事業は、我が国でも先駆的な取り組みであった。結果として、未利用地化していた旧工場敷地が近代的な病院と大学の看護学生研修センター及び大型ショッピングモールとして再生され、新病院は「医療福祉建築賞2007」という全国規模の名誉ある建築賞を受賞した。

病院運営の最大の目的は医療の質の向上であり、片岡善彦院長は「世界レベルの医療が提供できる病院」を目標に掲げている。そのためには、職員個々に高いレベルのスキルが求められるところであり、人が育つ組織風土づくりが当院の重要な経営目標となっている。毎年10人前後の研修を受け入れる医師臨床研修の機能は、四国で最初の第三者機能評価（NPO 法人卒後臨床研修評価機構）の認証を取得しており、また、全国に先駆けて実施している新卒看護師の臨床研修制度も注目を浴びている。

今、次のランナーを目前にして、無事に完走できたことの幸運に感謝し、次のランナーが幾多の困難を乗り越えて更に先へと襷を繋いでくれることを祈るのみである。

この医学雑誌も発刊14回目となるが、その内容を充実させながら次々と襷を繋いでいかれることを期待する。

十一 八天才天ア子高羅け羅子野

設在 廣東 汕頭 廣東 汕頭 廣東 汕頭

